

福井県立三方青年の家(1/2)

三方青年の家は縄文体験のできる宿泊研修施設です

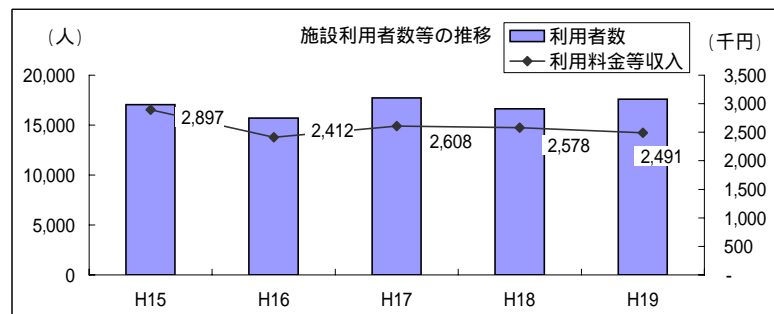
所在地	三方上中郡若狭町鳥浜122-27-1		
設置年月日	昭和38年5月1日(平成14年4月17日改築)		
施設の種類	宿泊・研修施設	施設管理主体	県
設置の目的	青少年を対象とした各種体験活動や研修会などを開催し、心身ともに健全な青少年の育成を図る。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄筋コンクリート造3階他、延3,583.77㎡ 宿泊室(120名)、研修室(90名)、多目的ホール(500名)、キャンプ場		
職員数	職員5人		

利用状況等

	H15	H16	H17	H18	H19
利用者数(人)	17,056	15,709	17,719	16,629	17,610
利用率(%)	25.5	23.9	27.1	25.5	

利用者負担(利用料金)等

施設使用料	26歳以上	880円
	26歳未満	530円
	高校生	390円
	小・中学生	270円



利用状況の推移	近年の利用者数は、平成17年度の約18,000人をピークにほぼ横ばいで推移しています。平成19年度は、例年利用者の少ない11月～3月に昨年と比べて増加した結果、年間では前年度と比べて約6%の増加となりました。
---------	--

施設の特徴

嶺南地域における公共の青少年宿泊施設3施設のうちの一つ

嶺南地域には、公共の青少年の宿泊施設は3施設(若狭湾少年自然の家、敦賀市少年自然の家、三方青年の家)があり、低料金で利用できるため、小・中学校の宿泊体験施設やスポーツ少年団、子供会などの活動の場として幅広く利用され、児童生徒の体験活動を促進しています。

また、高校の部活動の強化合宿や生徒会のリーダー研修会などでも年間を通じて利用されています。

利用に配慮した施設

創作活動・実験・自然観察など学習活動が容易に行えるよう研修室を1階に配置し、野外施設との連携がとりやすいよう直接外出もできる構造としています。

体育館に多目的ホール機能を付加し、講演会やシンポジウム等の開催ができます。

主催事業の開催

次代を担う青少年の「生きる力」を育むため各種教育関係団体と連携して各種事業を開催しています。

ちまき作りに挑戦!



たたき網in三方湖



平成19年度の特色について

事業実績	<p>わくわく体験塾を近隣の5施設(国立若狭湾少年自然の家、県海浜自然センター、若狭町立縄文博物館、県歴史民俗資料館)と連携して、地域の自然や歴史に関する体験学習事業を実施しました。【延参加者数:23名】</p> <p>体験とふれあいを通じて思いやりや自主性、協調性、忍耐力などを養う長期宿泊体験事業を3泊4日の日程で実施しました。【延参加者数:32名】</p> <p>このほか、ちまき作りに挑戦、ハゼ釣り大会、優勝目指せ!かるた大会、レザークラフト教室などの児童とその家族を中心とした体験活動事業や、地域の伝統的な漁法に接することのできるたたき網in三方湖など主催事業で16事業1,044名の参加があり、有意義な事業を展開することができました。</p>
------	---

福井県立三方青年の家(2/2)

行政コスト計算書(平成19年度) (単位:千円)

		総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	52,115	41.6%	104.7%
	退職給与引当金繰入	60	0.0%	-18.5%
	計	52,055	41.6%	103.9%
物にかかるコスト	物件費	22,110	17.7%	108.5%
	維持補修費	762	0.6%	141.4%
	減価償却費	32,723	26.2%	100.0%
	計	55,595	44.5%	103.7%
その他	公債費(利子)	17,172	13.8%	93.3%
	その他	5	0.0%	100.0%
	計	17,177	13.8%	93.3%
合計		124,827	100.0%	102.2%
収入	利用料等収入	2,491	2.0%	96.6%
	その他収入	172	0.1%	93.5%
	一般財源	122,164	97.9%	102.3%

バランスシート(平成20年3月31日現在) (単位:千円)

借方			貸方		
資産	前年比		負債	前年比	
有形固定資産	1,474,340	97.8%	固定負債	1,112,152	92.7%
うち建物	1,503,094	97.9%	うち起債残高	1,160,505	92.9%
			うち退職手当引当金	39,775	100.8%
投資等	0	-	流動負債	88,068	100.0%
流動資産	0	-	正味資産	274,120	125.3%
計	1,474,340	97.8%	計	1,474,340	97.8%

主な指標 (単位:%、円/人)

	H19	H18	前年比
県民1人あたり有形固定資産額	1,808	1,841	98.2%
県民1人あたり将来負担額	1,364	1,467	93.0%
世代間負担率	18.6	14.5	128.4%

バランスシート、行政コスト計算書の特色

行政コストは、物件費がやや増加したことを受けて前年度比約2.2%の増加になっています。

他地区の青年の家等と比べ、施設が新しく資産規模も大きいことから県民1人あたり有形固定資産額が大きく、起債の償還も残っていることから、県民1人あたり将来負担額も大きくなっています。

施設の目的上、管理運営上、主要な事業

施設の維持管理や主催事業等の実施
(主催事業は職員の日常業務として実施)
[H20予算額:約25百万円]

今後の課題

ラムサール条約登録地の三方五胡や、縄文博物館が隣接する立地特性を活かした施設利用の促進が必要です。

主催事業の一層の魅力化と多人数参加型の事業についての検討が必要です。

今後の事業方針
取り組み内容

今後は以下の取組みにより、利用者増を図ります。

- ・湖畔に立地している点、緑に囲まれている点、縄文博物館が隣接している点等を活かした各種体験事業、研修等に取組みます。
- ・主催事業の企画実施にあたって各種教育関係者、地域との連携を図ります。
- ・ホームページ等による広報に努めます。
- ・利用者の立場を理解した施設利用の弾力化を図ります。

